



BβEテルH通信

2023年6月号（第239号）

松山ベテル病院 松山市祝谷6丁目1229番地 TEL089-925-5000

ホームページ <https://www.bethel.or.jp/>



終末期病棟での研修

5月1日～5月28日まで緩和ケア病棟で研修されている城戸貴弘先生に記事を寄せていただきました。

5月1日からの約1ヶ月間、松山ベテル病院のホスピス病棟で研修を行い、短い間ながらも多くのことを学ばせていただきました。

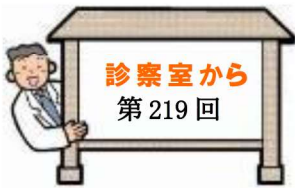
私がホスピスや終末期医療に興味をもったのは、研修医1年目に急性期病院での看取りを経験したことがきっかけでした。誤嚥性肺炎や脳卒中のため、救急車で搬送された患者さまの多くは自宅退院や慢性期病院へ転院となりますが、中にはそのままお看取りになる方もいらっしゃいます。そのようなお看取りを経験するたびに、本人や家族が死を受け入れるための時間がいかに重要かを痛感しました。そのため、ホスピス病棟では終末期にどのようなケアをしているのか学びたいと考え、研修先として選択させていただきました。

本原稿執筆時点では、ホスピス病棟で経験したお看取りは1名ですが、非常に印象深いお看取りとなりました。その方は悪性腫瘍のためターミナルケアの方針となり、ご家族の手厚い介護のもとベテル病院に入院されました。入院初日に私が診察した際には、ご家族が作った手料理を美味しいと言って召し上がり、診察上も明らかな異常や痛みの訴えなく穏やかに過ごされていました。そして入院から約1週間でお看取りとなりました。お別れの会ではご家族が、「最後に親孝行をすることができて本当によかったです、もっと早くここに連れてきてあげればよかった。」とおっしゃっていたことが強く印象に残っています。患者さまご本人も非常に穏やかな顔をされており、ターミナルケアの効能を実体験することができました。

私は将来的に小児科を専攻しようと考えており、小児の血液腫瘍分野や在宅医療に興味があります。今回の研修で学んだことは、それらの分野においても活かすことができると確信しています。症例数こそ少ないですが、今後小児を看取らなければならないこともあるでしょう。その際、どのようなケアをすることで本人やご家族が死と向き合い、受け入れることができるか、医療人としてできることを今後も模索していきたいと思います。

非常に短い期間の研修ではありましたが、親身にご指導いただきありがとうございました。

（愛媛大学附属病院 研修医 城戸 貴弘）



ご自宅で療養する方のために ～がん在宅緩和ケア～



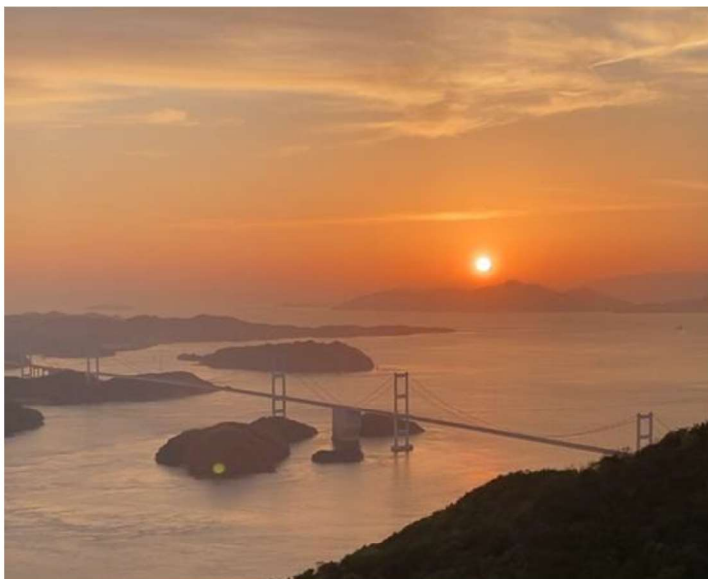
「病院に入院するのではなく、住み慣れた自宅で過ごしたい。」とご自宅での療養を希望される方が多くいらっしゃいます。在宅療養を支えるために、各種の在宅サービス（訪問介護・訪問看護・訪問診療・デイサービス等）や、医療機関等の相談窓口、医師会・薬剤師会などの多くのしくみがあります。

先日、医師会主催の「症例検討・研修会～がん在宅緩和ケア」は、私達が関わった方の事例をもとに研修をしました。高齢女性Aさん、親から引き継いだ食堂を夫と二人で切盛りしてきたけれど、ご本人が病気になり店を閉め、夫が亡くなり一人で生活されていきました。遠方に住む息子さんらの支援や、ヘルパー、ケアマネジャー、デイサービス、訪問診療・看護を受けながら、思い出の詰まった家で一日でも長く過ごしたいと希望されていきました。元々の持病に対する治療に加えて、癌による痛みや倦怠感などを緩和する薬を使いながら穏やかに暮らすことが目標でした。病状や体調に合わせて薬の処方をするけれど、実際に、ご本人が正しく内服できるかどうかは別の問題。正しく内服できなければ、症状緩和はできません。そこに欠かせない存在が、訪問薬剤師さん。医師が処方した薬を患者さま宅に届けてくれる（夜間休日や緊急時も）だけでなく、服薬状況を確認して、万一適切に内服できていない場合には、薬の説明や管理方法（薬カレンダーや薬の一包化など）、その患者さまに合った薬の処方（薬の剤型変更（錠剤→粉薬など）、飲み方の工夫など）を提案したり、患者さまの身体・精神・社会的な苦痛を聴取したり、多職種と連携して、きめ細やかに対応をしてくださっていました。訪問薬剤師、ヘルパー、訪問看護師、ケアマネジャーの丁寧なチームワークの中で、Aさんはご自分が望むところまで在宅療養を続けることができました。

若い頃に松山に来て食堂で働き、見初められて結婚、子育てをしながら忙しくお店を切り盛りした時間が一番輝いていたというAさん。食堂のあった場所を改修した居住スペースで、家族の時間を思い出しながら暮らしたいというAさんの希望を、ヘルパーやケアマネジャーを中心に、チームの皆が尊重し関わっていました。

患者さまお一人お一人の想いや希望は異なりますが、大切にしたい想い、過ごしたい場所などをお聴きして、その方の希望を共有し実現することを目指し、これからもチームで関わらせていただきたいと思います。

在宅医療を支援するための窓口として、松山市在宅医療支援センター（松山市医師会内）や在宅薬局支援センター（愛媛県薬剤師会内）等、各病院（当院も）に医療相談室・地域医療連携室があります。ご自宅での療養の希望・困りごとなどの相談をお受けしています。お気軽にご相談ください。



（ホスピスケア医 奥村 淳子）

—認知機能リハビリテーションとは—

認知症の治療は薬物療法と非薬物療法の2つに大別されます。非薬物療法は、リハビリを中心に精神療法やケアを通して行われることもあり、医療・介護のさまざまな職種が関与しています。特に初期・軽度の認知機能の低下に対しては成功体験の積み重ねが大切であるとされています。認知機能リハビリテーションでは、患者さま、利用者さまの「身体機能」「認知機能」「日常生活動作」「精神機能」などを評価し、その方にあった目標や治療の計画をたてることで、より効果的なリハビリテーションが提供できるよう取り組んでいます。

身体トレーニング

生活トレーニング

運動機能訓練

(体操、筋力訓練、バランス訓練、立位、歩行訓練 等)

動作訓練

(トイレ、風呂、物品操作、料理、洗濯の訓練 等)



認知トレーニング

認知・学習療法

- ・療法士による個別訓練～机上の脳トレ課題
- ・療法士やデイスタッフによる認知レクリエーション 等



絵画



回想法

懐かしい話や思い出を語り合いながら創作活動を行っています。長く続けることで認知症の予防や精神の安定に効果があると言われています。



参加型ゲーム



創作活動



記憶訓練



花壇の手入れ

(言語聴覚士 宮居 陽子)

外来診療日のお知らせ

◎豊田 泰孝 医師（精神科・心療内科）

6月14日（水）、6月28日（水）

◎多田 聡 医師（神経内科）

6月8日（木）、6月22日（木）

◎吉田 暉 医師（神経内科）

6月1日（木）、6月15日（木）、6月29日（木）

◎加藤 喜久美 医師（内科）

当面の間、休診いたします。

◎尾崎 絵美 医師（内科）

当面の間、休診いたします。



ベテル's ガーデン



[j01]



（千龍）

願う日々

てるてるぼうずに

梅雨入り

（ねこ丸）

開花待つ

つぼみ数えて

紫陽花の

ベテル句会



- ・投句箱を外来・各病棟に設置しています。皆様のご投句をお待ちしております。
- ・『ベテル通信』について、ご意見やご要望を「ご意見箱」へお寄せください。
- ・掲載中の写真についてはご本人、ご家族の許可を得ています。

発行日 2023年5月23日